

高等技術専門校の校数及び配置(案) ※現行(定員200人)ベース

○現行校数 **5校**(全国割合 約6%)

○現行配置 白石, 仙台, 大崎, 石巻, 気仙沼

○現行訓練科(延べ17科), 定員(300人)

校名	科名	訓練期間(年)	定員(人)	直近3年間			
				H24~28 5年平均 充足率(%)	H29年度 充足率(%)	H30年度 充足率(%)	R1年度 充足率(%)
白石	通信システムエンジニア	2年	20	55.0%	50.0%	30.0%	55.0%
	プログラムエンジニア	2年	20	90.0%	90.0%	55.0%	100.0%
	計		40	72.5%	70.0%	42.5%	77.5%
仙台	機械エンジニア	2年	15	80.0%	53.3%	66.7%	73.3%
	電子制御システム	2年	20	90.0%	75.0%	90.0%	50.0%
	自動車整備	2年	20	105.0%	105.0%	95.0%	90.0%
	電気	1年	20	100.0%	100.0%	75.0%	95.0%
	設備工事	1年	20	100.0%	40.0%	90.0%	105.0%
	建築製図	1年	20	75.0%	55.0%	60.0%	75.0%
	塗装施工	1年	20	40.0%	55.0%	45.0%	40.0%
	広告看板	1年	10	90.0%	50.0%	40.0%	60.0%
	計		145	84.8%	68.3%	72.4%	74.5%
大崎	木の家づくり	2年	15	93.3%	66.7%	100.0%	73.3%
	電気	1年	20	45.0%	25.0%	60.0%	35.0%
	計		35	65.7%	42.9%	77.1%	51.4%
石巻	自動車整備	2年	20	90.0%	105.0%	100.0%	60.0%
	金属加工	1年	20	40.0%	35.0%	30.0%	40.0%
	木工	1年	10	50.0%	50.0%	100.0%	30.0%
計		50	62.0%	66.0%	72.0%	46.0%	
気仙沼	自動車整備	2年	15	66.7%	60.0%	66.7%	40.0%
	オフィスビジネス	1年	15	46.7%	73.3%	86.7%	46.7%
	計		30	56.7%	66.7%	76.7%	43.3%
合計		300	74.3%	65.0%	69.3%	64.3%	

6校以上(全国割合 約11%)

⇒現行訓練科の存続かつ新たな訓練科は設置しない方向としており、また少子化による人口減少や指導員の人員配置等を総合的に勘案すると、現行校数以上に設置する理由に乏しいため、6校以上は考慮しないものとする。

○校数 **4校案**(全国割合 約9%)

○配置案 ①県南部 ②県中部 ③県北部 ④県東部(北東部)

○訓練科案, 定員案

⇒現行訓練科を存続しつつ、推計人口を基に、2030年の入校見込者を160人として入校率80%を乗じ、定員数を設定。

1校(3科)	開発設計系	通信システムエンジニア	2年	10
		プログラムエンジニア	2年	20
		電子制御システム	2年	15
		計		45
2校(9科)	自動車・機械系	自動車整備①	2年	20
		機械エンジニア	2年	15
	設備系	電気	1年	20
		設備工事	1年	15
		塗装施工	1年	10
		広告看板	1年	10
	木建工業系	木の家づくり	2年	10
		建築製図	1年	10
		木工	1年	10
	計		120	
3校(2科)	自動車・金属系	自動車整備②	2年	10
		金属加工	1年	10
		計		20
4校(2科)	自動車・事務系	自動車整備③	2年	10
		オフィスビジネス	1年	10
		計		20
4校案(延16科) 定数計			205	

○校数及び訓練科が現状に最も近い。
△最も少ない校の定員は20人となり、全国的にも数少ない「小規模校」が存続する。
●現状の校数に近く、圏域毎の配置となるが、集約効果は最も少ないことから、国による財政措置が十分に受けられない可能性がある。
●少子化の進展に伴い、将来的には更なる集約化が必要となる場合がある。

○メリットなど △課題など ●デメリットなど

3校案(全国割合 約19%)

A案 ①県南部 ②県中部 ③県北部
B案 ①県南部 ②県北部 ③県東部

同左

1校(3科)	開発設計系	通信システムエンジニア	2年	10
		プログラムエンジニア	2年	20
		電子制御システム	2年	15
		計		45
2校(9科)	自動車・機械系	自動車整備①	2年	20
		機械エンジニア	2年	15
	設備系	電気	1年	20
		設備工事	1年	15
		塗装施工	1年	10
		広告看板	1年	10
	木建工業系	木の家づくり	2年	10
		建築製図	1年	10
		木工	1年	10
	計		120	
3校(3科)	自動車・金属系・事務系	自動車整備②	2年	20
		金属加工	1年	10
		オフィスビジネス	1年	10
計		40		

3校案(延15科) 定数計 205

○ニーズの高い自動車整備科を2校に設置するほか、その他は関連の訓練科を集約して県内に満遍なく配置できる。
○国の財政措置が可能。
△定員が40人台の校が存在し、1~2校案よりもランニングコストが嵩む。
●少子化の進展に伴い、将来的には更なる集約化が必要となる場合がある。

2校案(全国割合 約30%)

A案 ①県南部 ②県北部
B案 ①県西部 ②県北部

同左

1校(9科)	開発設計系	通信システムエンジニア	2年	10
		プログラムエンジニア	2年	20
		電子制御システム	2年	15
		計		45
	自動車・機械系	自動車整備①	2年	20
		機械エンジニア	2年	15
	設備系	電気	1年	20
		設備工事	1年	15
		塗装施工	1年	10
		広告看板	1年	10
計		135		
2校(6科)	自動車・金属系	自動車整備②	2年	20
		金属加工	1年	10
	木建工業系	木の家づくり	2年	10
		建築製図	1年	10
	事務系	木工	1年	10
		オフィスビジネス	1年	10
計		70		

2校案(延15科) 定数計 205

○ニーズの高い自動車整備科を2校に設置し、その他は関連の訓練科を集約可能。
○国の財政措置が可能。
△配置を2圏域に集約させるための絞り込むを行う必要がある。
●現校数よりも半以下となり、大幅な削減となる。
●少子化の進展に伴い、将来的には更なる集約化が必要となる場合がある。

1校案(全国割合 約26%)

県内に1カ所

同左

1校(14科)	開発設計系	通信システムエンジニア	2年	10
		プログラムエンジニア	2年	20
		電子制御システム	2年	15
		計		45
	自動車・機械系	自動車整備	2年	30
		機械エンジニア	2年	15
		金属加工	1年	10
	設備系	電気	1年	20
		設備工事	1年	15
		塗装施工	1年	10
		広告看板	1年	10
		計		195
	木建工業系	木の家づくり	2年	10
		建築製図	1年	10
木工		1年	10	
事務系	オフィスビジネス	1年	10	
計		195		

1校案(14科) 定数計 195

○訓練科が分散しないことによる効率化が図られる。
○集約効果(インシャルコスト, ランニングコスト)が最も高く、国の財政支援が可能。
○今後の更なる集約化は不要となる。
△全県を網羅する必要があり、交通アクセスや用地確保など配置場所が重要。
●校数の大規模な削減であり、特定地域への一極集中となる。